

3 C区市町村包括補助 令和4年度採択事業一覧

子育てに全力で取り組む区市町村徹底支援プロジェクト

自分らしく暮らせる“Chōju”東京プロジェクト

「みんなの居場所」創出プロジェクト

令和5年1月
東京都

はじめに

東京都は、「『未来の東京』戦略」（令和3年3月策定）においてその核に据えた**3つのC（Children(子供)、Chōju(長寿)、Community(居場所)）に係る取組を区市町村と連携して推進**し、子供が笑顔で子育てが楽しいと思える社会、誰もが心豊かに自分らしく暮らせるChōju社会、誰もが求める「居場所」につながる可以实现を目指しています。

そのために本補助事業では、区市町村の取組のうち、**既存の補助事業の対象範囲を超えた分野横断的な事業や事業効果が複数分野に波及する先駆的な事業**に対して補助を実施しております。

本冊子には、令和4年度に採択した事例を掲載しております。東京都では、来年度以降も3つのCに係る取組を都内全域に波及させるよう取り組んでまいります。各区市町村におかれましても、**事業の構築や本補助事業の活用に向けた検討に、本事例集を役立てていただけますと幸いです。**

目次

- 1 令和4年度 子供・長寿・居場所区市町村包括補助事業について P4
- 2 子育てに全力で取り組む区市町村徹底支援プロジェクト P5
- 3 自分らしく暮らせる“Chōju”東京プロジェクト P14
- 4 「みんなの居場所」創出プロジェクト P25
- 5 参考 P32

1. 令和4年度 子供・長寿・居場所区市町村包括補助事業について

- 以下の内容にて事業を募り、令和4年度は新たに21事業を採択しました。

対象事業

- 既存の補助事業の対象範囲を超えた**分野横断的な取組**や**事業効果が複数分野に波及する先駆的な取組**
 例：「未来の東京」戦略（121、144、168ページ）に記載のあるようなハードとソフト、教育分野と保育分野、子供と高齢者など既存事業では取組が困難であった分野横断的な事業等（記載は一例）

補助・申請内容

- 区市町村は、各区分ごとに補助上限額の範囲で申請可能。複数の事業を組み合わせることも可能。複数の区分への申請も可能であるが、一事業を複数区分に重複して申請することは不可
- 補助率・補助期間は、10/10・最大3か年（審査は毎年度実施）

| 区分 | Children | Chōju | Community |
|-------------------------|---|--|---|
| | 子育てに全力で取り組む区市町村徹底支援プロジェクトに関する事業 ・公園を活用した子供・子育ての豊かな環境づくり など | 自分らしく暮らせる“Chōju”東京プロジェクトに関する事業 ・高齢者のデジタルデバインド解消によるQOLの向上 など | 「みんなの居場所」創出プロジェクトに関する事業 ・学校を核とした、地域の学び、居場所の創出 など |
| 令和4年度予算額 予算計上（福祉保健局） | 2億円 子供家庭支援区市町村包括補助事業 | 4億円 高齢社会対策区市町村包括補助事業 | 1億円 地域福祉推進区市町村包括補助事業 |
| 補助上限額 | | | |
| 基盤整備を伴う事業 | 5千万円 | 1億円 | 5千万円 |
| 基盤整備を伴わない事業 | 1千万円 | 1千万円 | 1千万円 |

※ 「自分らしく暮らせる“Chōju”東京プロジェクトに関する事業」は、デジタル活用が提案条件

2.子育てに全力で取り組む区市町村徹底支援プロジェクト

○ 次ページ以降から紹介する7事業は本プロジェクトに基づき採択されたものです。
 ※下図のスライドは採択事業ではありません。

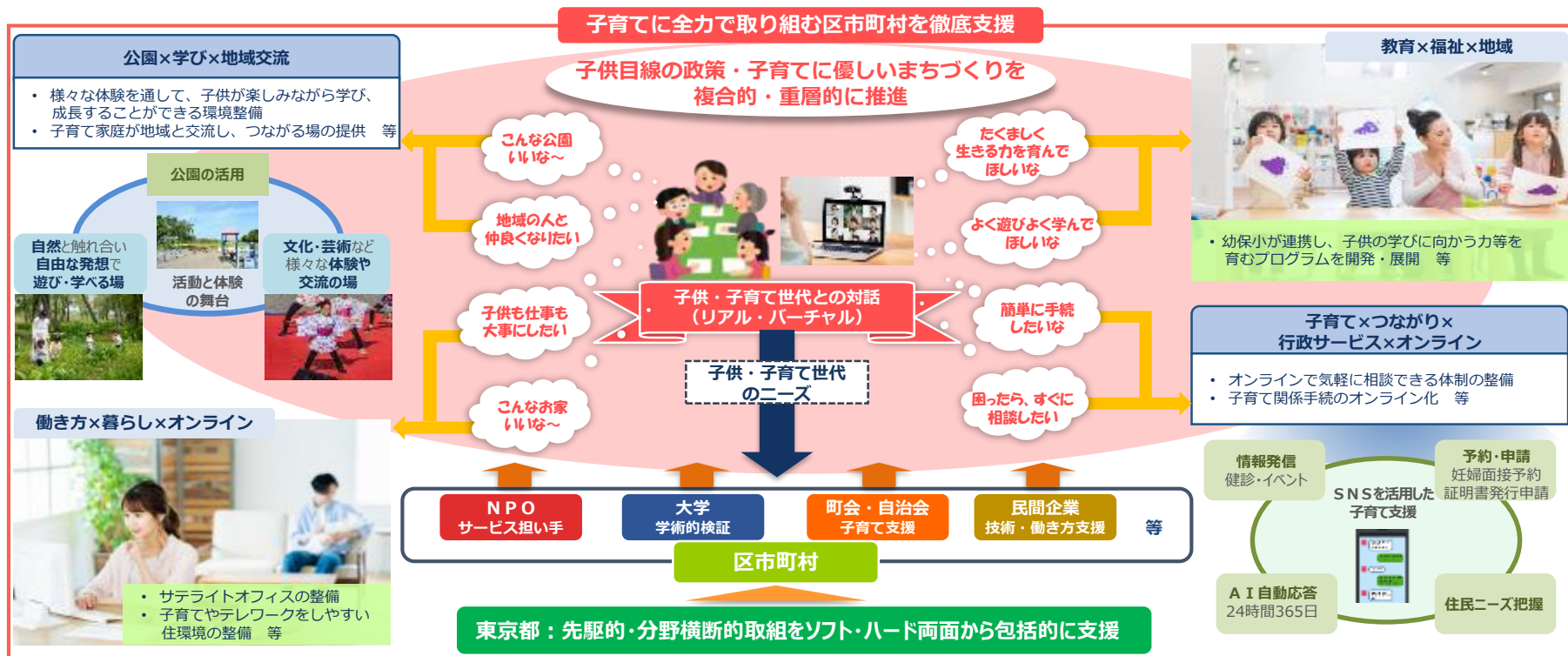
参考(「未来の東京」戦略 P121)

戦略1
 子供の笑顔

2. 子育てに全力で取り組む区市町村徹底支援プロジェクト



○ 「世界で最も子供に優しく、子供がすくすくと育つまち」を実現するため、都内区市町村の手上げ方式で、子供・子育て世代との対話等を通じた、先進的で意欲的な子供目線の政策や子育てに優しいまちづくりの推進を、都が徹底的に支援し、都内全域に展開



3か年のアクションプラン (主要)

| 具体的な取組 | 2020年度末 (見込み) | 年次計画 | | |
|-------------------------|----------------|--------|--------|--------|
| | | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 |
| 区市町村の先駆的・分野横断的取組を包括的に支援 | 新たな補助スキームの制度設計 | 4自治体 | 8自治体 | 12自治体 |

2030年への展開

■ 全区市町村に展開【2030年】
 子供が笑顔で子育てが楽しいと思える社会を実現

【採択事業一覧】 子育てに全力で取り組む区市町村徹底支援プロジェクト

| | | | |
|---|------|---|------|
| 1 | 江東区 | 区民参加イベントとしての原っぱ整備や、整備後の活用イベントを通じた子どもの学び・遊びの場の整備 | P 7 |
| 2 | 江東区 | オリンピックレガシーを活用したマナー向上・青少年健全育成事業 | P 8 |
| 3 | 武蔵野市 | 公園を活用したアウトリーチ型子育て支援事業等の推進 | P 9 |
| 4 | 府中市 | 子ども政策におけるDXの推進 | P 10 |
| 5 | 日野市 | 集え！未来を担うひのっ子たち 日野市の子育てのランドマークづくりプロジェクト | P 11 |
| 6 | 日野市 | 学校体育施設等を拠点とした「スポーツを楽しむ」子供・子育て支援事業 | P 12 |
| 7 | 清瀬市 | 子どもを中心に、利用する誰もが“のびのび・すくすく・いきいき過ごす”未来創造拠点の整備 | P 13 |

地元に密着した原っぱの整備に区民が参加する仕組みを通じ、子供達の自然体験や地域内・子育て世代同士の交流促進を実現

事業内容

◆乳幼児でも安心して外遊びできる原っぱの整備

- ・誰もが安心して遊ぶことができ、草や虫などの**自然と年中触れ合える環境**を増やしていくため、**公園内の既存広場に原っぱを整備**
- ・植物の育成に適した土壌に改良し、芝等と**踏圧や日陰に強い植物**とを混植させることで維持コストの低減を図る



幅広い世代が安心して外遊び

◆一連の流れに区民が連続的に参加し、子供を巻き込む公園づくりを実現

- ・芝張り、種まき、養生の観察・作業体験を**親子参加型で実施**し、自然体験学習の機会を提供
- ・近隣の保育園・小中学校等と連携し、開放後の**原っぱを活用した遊びイベントを開催**
- ・**区民が、整備の一連の流れに連続して参加**することで、公園への愛着を高めるとともに、「CITY IN THE GREEN（みどりの中の都市）」の機運を醸成

ポイント

- 子供や保護者に**公園の原っぱの育成からケア**までの過程に携わってもらうことで、公園への愛着を高めることができる**区民参加型**の取組
- 維持管理費の低減を図るため、植物の育成に適した土壌に改良し、芝等と踏圧や日陰に強い植物とを混植させ**原っぱ整備**を実施

スケートボードのマナー向上と青少年の健全育成をハード・ソフト両面から実施するとともに、
アーバンスポーツの振興とシティプロモーションを展開

事業内容

◆区全体のスケートボードマナーの向上

- ・マナー啓発を含む小学生向けの初級者教室を実施
- ・区出身の堀米選手のマナー啓発コメントをSNS等により発信・拡散

◆スケボーパーク周辺施設の利便性・安全性の向上

- ・施設の開業に伴い、安全でスムーズな新たな入退場動線を確保するため、園路改修を実施
- ・利用者や他施設利用者等の安全性確保のため、園路の照明灯や案内・注意表示を追加設置

◆オリパラレガシーの活用によるシティプロモーション

- ・施設内にアクアティクスセンターのベンチを設置、オープニングセレモニー（有名選手による試走等）も実施し、レガシーを活用した「スポーツが熱いまち 江東区」を発信
- ・区観光協会と連携し、HP・SNSを通じてスケボーの街としてのシティプロモーションを展開



開設予定地（夢の島総合運動場内）



ポイント

- オリパラレガシーを活用し、シティプロモーションにつなげている
- 施設整備のみではなく、区出身の有名選手の活用等によるスケートボード愛好者のマナー向上を組み合わせ実施

高架下空間を有効活用し、ハード・ソフト事業の両面からイメージの転換を図り、明るく誰もが足を運びたいくなる地域交流の場を創出

事業内容

◆中央高架下公園のリニューアル整備事業

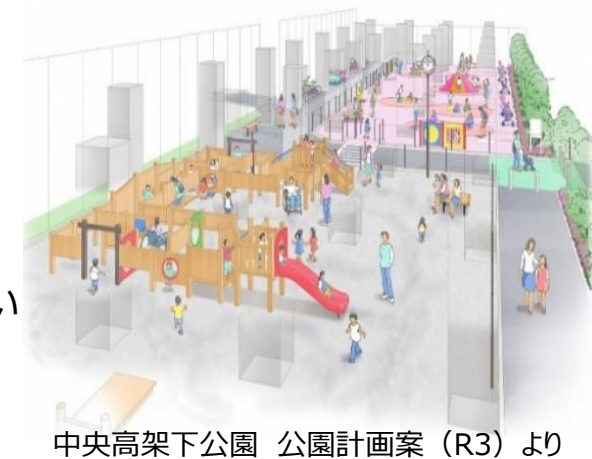
- ・中央高架下公園を、子どもの意見を取り入れて、インクルーシブな空間にリニューアル
- ・多摩の木を循環させることで森林環境の保全を行うため、園内に配置する木製遊具には多摩産材を活用

◆コロナ禍に対応した公園を活用した子育て支援事業

- ・保育コンシェルジュ等を派遣し、気軽に子どもの預け先などの相談を行える環境を整備
- ・障がい児支援員等による公園遊具を活用した発達確認や相談会の実施

◆官民連携事業

- ・鉄道事業者と連携し、子どものイラストを活用した高架柱の塗装などを行い公園全体のイメージアップを図るとともに、子育てイベントの企画・実施
- ・子ども協会と連携し、おもちゃを活用した子育て支援事業の実施



中央高架下公園 公園計画案（R3）より

ポイント

- 近隣に園庭のない保育施設が多数ある市街地において、高架下を活用した公園整備を実施しており、近隣住民や子どものニーズを踏まえた取組
- 保育コンシェルジュ等派遣することで、公園という場を活用したアウトリーチ型のソフト事業を展開

デジタルツールの活用により、利便性向上と部門連係を強化し、
保護者へのサポートと子供の成長にあわせた切れ目のない支援を実施

事業内容

◆小児科・産婦人科オンライン相談の拡充

- ・24時間365日、産婦人科医、小児科医、助産師に気楽にオンライン相談できる事業について、
小中学生も対象に拡大

◆子育て支援アプリの導入及び関連事業のデジタル化

- ・子育て情報が複数のサイト及び紙媒体に分散して発信しているため、
情報発信・電子母子手帳等の機能を備えたアプリを構築・運用
- ・紙媒体のため検診後の活用が難しい健康診断の予診票や診断結果
をデジタル化

◆発達・教育支援システムの導入

- ・福祉、教育、保健部門が、児童発達支援等の記録等を共有できる
システムを構築し、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援を実施



ポイント

■小中学生も対象とした小児科・産婦人科のオンライン相談の実施や、部門間共通の発達・教育支援システムの導入、母子手帳アプリの導入など、DX活用と子供施策の今日的課題（ユースヘルスケア、ネウボラ的取組）対応に向けた取組

■将来的に各システム間の連携を図り、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援を実現

妊娠期から18歳まですべての子供の健やかな成長を切れ目なく支援するとともに、
近隣大学など多様な主体と協働して地域全体で支え合う社会を創る

事業内容

◆赤ちゃんから18歳までみんなが集える子育ての総合支援拠点を開設

- ・妊娠期から18歳まで切れ目なく支援する子ども・家庭・地域の総合支援拠点として（仮称）子ども包括支援センターを整備
- ・センター内に整備予定の「子育てひろば」、「中高生支援拠点」を同フロアに設置
- ・中高生世代が、乳幼児や保護者と触れ合うことで、子育ての大切さや人生設計を考える契機とするとともに、引きこもりや中退防止につなげていく



◆「安全安心」「リフレッシュ」「なんでも話せる」交流の場を整備

- ・隣接する実践女子大学と連携し、子育てひろば利用者と中高生が相互にかかわる多様なプログラム(子育てひろばにおける多世代交流等)を展開



ポイント

- 子育てひろばと中高生支援拠点を同フロアに設置するなど、ハード面で多世代交流を前提にして施設を整備しつつ、大学と連携をした多様なプログラムを実施するソフト事業で補完、補強する取組
- 子供の意見を取入れつつ、実践女子大学と協働して事業を企画

地域の多様なスポーツ資源を活用し、子供を中心とした誰もがスポーツに取り組みやすいまちづくりを実現

事業内容

◆「子供を中心とした誰でもスポーツに取り組みやすいまち」 を目指す協議会発足と運営

- ・部活動の抱える課題解決を目指し、**産学官民が参画する協議会**を
立上げ、持続的な運営と多世代型運動・スポーツ環境の拡充を実現

◆企業や地域の団体等と連携したスポーツプログラムの検討・ 実施

- ・WEBフォーム意見箱を設置し、**子供の意見やニーズ**を取り入れたプログラムを実施
- ・リアル指導の他に**遠隔指導等のデジタルツールの活用**

◆学校体育施設・社会体育施設のスポーツ拠点化

- ・学校体育施設と社会体育施設の**予約システムを統一**
- ・**体育施設のDX化**（スマートロック・**遠隔スポーツ指導プログラム**の検証）

ポイント

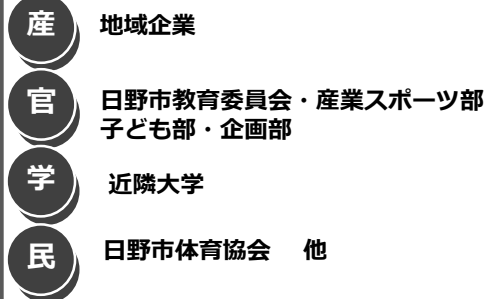
- 学校体育施設と社会体育施設の**予約方法を統一化**することで、市民が体育施設を利用する際の利便性を向上
- ソフト事業でも産学官民が参画する協議会を立ち上げることで、**企業との協働や子供の意見を取入れる仕組みを構築**

協議会

子供を中心とした 誰でもスポーツに取り組みやすいまち

- ・市民向けスポーツ環境整備とプログラム開発
- ・スポーツを活用した地域課題解決

▲
諸力融合（市共通のコアコンセプト）



児童館・図書館等の複合施設とオープンスペースである中央公園を一体的に整備することで、多様な機能の融合による子どもを中心とした多世代交流を実現

事業内容

◆子どもを中心とした市民が、整備・運営に積極的に参画

- ・基本計画(R3年度)の策定にあたり、**子供の目線**(受けたサービスアイデア、ルール、イベント等への意見)を数多く反映
- ・R4年以降「**(仮称)ジュニアスタッフ委員会**」の設置等により、子どもを中心とした市民が各種イベントの実施・運営に積極的に参画

◆多機能性を活かした多世代交流機会の創出

- ・児童館、図書館、公園の異なる機能が融合し、子どもと親、高齢者等が日常的に交流するにぎわいの場生まれ、**多世代交流の機会を創出**



配置イメージ（基本計画より）

ポイント

- **子供の利用者が少ない図書館に子供を呼び込むため、児童館・公園と一体的に整備**
- **ワークショップ等での子供意見を踏まえ、ハード面で音楽室やグループワークスペースを設置、ソフト面では図書館の選書等に子供に携わってもらう仕組みを構築**

3. 自分らしく暮らせる“Chōju”東京プロジェクト

○ 次ページ以降から紹介する8事業は本プロジェクトに基づき採択されたものです。
 ※ 下図のスライドは採択事業ではありません。

参考(「未来の東京」戦略 P144)

1. 自分らしく暮らせる“Chōju”東京プロジェクト



○ 高齢者をはじめ、誰もが元気で心豊かに、自分らしく暮らせる地域の実現に向けて、意欲ある区市町村が多様な主体と連携し、地域資源を活用しながら、デジタルデバйд対策や幅広いデジタル活用により、QOL向上を図る取組等を都が強力に支援。

成果検証し、都内全域に展開



地域の実情に応じた“Chōju”の取組を支援

デジタル環境の整備
・スマートフォンの貸与等

Wi-Fi

デジタル活用支援
・スマートフォン活用講座の実施

・デジタル活用を支援する人材を、高齢者から発掘・育成

デジタルを活用したQOLの向上

| | | |
|-----------|---|---|
| アプリの開発・提供 | <p>QOLを向上させるスマートフォンのアプリの開発・提供</p> <p>健康増進：社会参加、運動等</p> <p>安全・安心：見守り、防災等</p> | <p>高齢者のQOL向上</p> <p>・日常生活の中でのアプリ活用</p> <p>QOLの向上を体感</p> <p>・端末から得られたビッグデータを分析し、高齢者の潜在的なニーズを把握</p> <p>高齢者施策をブラッシュアップ</p> |
|-----------|---|---|

健康増進に向けたまちづくり

| | |
|--|---|
| <p>健康長寿のまちづくり</p> <p>地域で身体を動かしたくなる環境の整備</p> <p>・公園への健康遊具の設置</p> <p>・ウォーキングコースの設定 等</p> | <p>健康アプリによるインセンティブ付与</p> <p>健康遊具やウォーキングコース等で運動した場合に、健康アプリを通じてポイント付与</p> <p>【ポイント交換例】健康器具、自転車、美術館招待券 等</p> <p>高齢者の健康増進に向けた継続的な行動を支援・促進</p> |
|--|---|

多世代交流拠点・公的住宅におけるデジタル活用の推進

多世代交流拠点等において先端技術を活用し、非接触での交流が可能な環境を整備

公的住宅におけるA I等を活用した一人暮らし高齢者の見守り

3か年のアクションプラン (主要)

| 具体的な取組 | 2020年度末 (見込み) | 年次計画 | | |
|-------------------------|----------------|--------|-----------------|-----------------|
| | | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 |
| 区市町村の先駆的・分野横断的取組を包括的に支援 | 新たな補助スキームの制度設計 | 4自治体 | 事業実施 区市町村の増加 | 事業実施 区市町村の増加 |

2030年への展開

■ 都内全域に展開【2030年】
 ・地域の実情に応じて幅広くデジタルを活用し、誰もが心豊かに自分らしく暮らせる“Chōju”社会を実現

【採択事業一覧】 自分らしく暮らせる“Chōju”東京プロジェクト

| | | | |
|---|------|---|------|
| 1 | 目黒区 | デジタルでラクラク・ワクワクな未来へ！プロジェクト | P 16 |
| 2 | 中野区 | 地域と人のつながりを生む情報プラットフォームの構築 | P 17 |
| 3 | 豊島区 | つながる ひろがる デジタルシニア育成事業 | P 18 |
| 4 | 三鷹市 | 在宅医療・介護の先進的な研究や優れた介護人財を育成するための拠点の整備 | P 19 |
| 5 | 府中市 | できるをつなぐプロジェクト | P 20 |
| 6 | 東村山市 | 「グリーンインフラ×DX」AI動植物判定アプリを活用した自然散策促進による健康増進事業 | P 21 |
| 7 | 国分寺市 | デジタル機器を活用した高齢者の健康増進と地域活動の活性化事業 | P 22 |
| 8 | 新島村 | 式根島でChōju社会を実現する憩の家プラットフォーム創出事業 | P 23 |

高齢者が住民同士でデジタルデバイドを解消するとともに、街中でスマホを用いた便利で楽しい体験を創出

事業内容

◆地域グループ単位のスマホ教室等により、住民同士でデジタルデバイド解消

- ・スマホ教室や個別相談会を実施
(講座内容：基本操作・行政サービス・LINE・ZOOM・目黒区が提供している公式LINE・道路損傷の通報・防災地図アプリ等)
- ・高齢者を支援している方・意欲のある高齢者向けの研修を行い、**スマホ相談員**を育成
- ・町会・自治会等へのデジタル技術サポートの取組を通じて、地域のつながりを創出



◆街中でスマホを用いた便利で楽しい体験を創出し、高齢者のQOLを向上

- ・覚えたスマホ操作を実践できる**体験型のイベント**を実施
(イベント内容：教室で学んだ地図アプリの使い方、最適なルート検索、インターネット検索、QRコード読み取り等を実践する体験等)



ポイント

- 住民同士でのデジタルデバイド解消の取組を通じて、希薄化している**地域のつながりも強化**
- 日頃から高齢者に接する**機会の多い方をスマホ相談員として育成**し、デジタルデバイド対策を効果的に実施
- 街中でスマホを用いた様々な**体験イベントを創出**し、高齢者のQOL向上に繋げる

デジタルデバイド解消の伴走支援とともに、情報プラットフォームを構築して高齢者の地域参加を活性化

事業内容

◆デジタル機器初心者向け講習会・個別相談会等による伴走支援

- ・タブレット端末の貸借：60台
- ・伴走型のタブレット講習会 ・スマホ・タブレット相談会の実施
- ・「元気アップ体操」をオンライン配信（週2・3回）



◆地域と人のつながりを生む情報プラットフォーム（ためまっぷ）の構築



ポイント

- **伴走型**でデジタル機器初心者向けに講習や相談会を行い、デジタルデバイド解消を目指す
- 情報プラットフォームの構築を通じて、**高齢者の地域参加**を促すとともに、新たなコミュニティや地域団体の交流等により**地域の活性化**を図る

デジタルを学び・使いこなす拠点の整備とともに、商店街連携を通じて高齢者のQOLを向上

事業内容

◆デジタルを学び・使いこなす拠点として、地域共生カフェを開設

- ・5か所の区民ひろばにカフェ機能を付加し、**地域共生カフェ**として運営
- ・スマホ教室、**カフェスタッフ（地域コーディネーター）**による**スマホ相談**を実施
- ・区民ひろばと地域共生カフェを**ビデオ会議システム**でつなぎ、いつでも**個別相談が可能**

◆フレイル対策オンライン講座の実施

- ・作業療法士等の専門職による**フレイル対策事業**をオンラインで実施
- ・体操やウォーキング、栄養について、参加者からの報告と講師からの講評により、
双方向でやりとり
- ・**筋力測定会**を各区民ひろばで実施し、効果を測定

◆デジタルを活用した商店街との連携

- ・スマホ決済を初めて利用する高齢者を対象に、地域の商店街と連携した実証実験を行う
- ・商店街での実体験を通じてデジタルデバイドを解消し、高齢者の生活を支援すると同時に地域との
つながりを創出



ポイント

- 地域共生カフェを通じて、高齢者が**気軽にデジタルを学び・使いこなす環境**を整備
- デジタルを活用した、**フレイル対策や商店街での様々な体験**の創出により、高齢者のQOL向上を図る

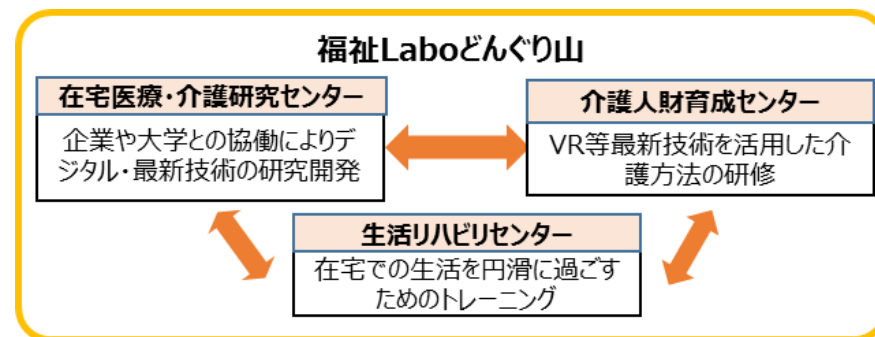
民間企業・大学等との協働により先進的な研究開発を実装し、在宅生活を続けることができる環境を整備

事業内容

◆在宅医療・介護の推進拠点「福祉Laboどんぐり山（仮称）」の整備

- ・旧特別養護老人ホームの施設を改修し、3つのセンターを設置
- ・デジタルや最新技術を活用した研究開発・実証や人財育成プログラムの実施ができる機能を実装

➡ 在宅医療・介護の推進拠点・モデル施設として機能



◆在宅生活を支えるサービスの開発

- ・施設内に協働研究推進室を設置し、民間企業や研究機関、大学との協働による研究開発を推進

◆在宅生活のトレーニング・最新技術を実証する場の創設

- ・入居者に、最新のデジタル機器を活用したトレーニング等を実施
- ・在宅生活を支える様々な最新技術を実証し、課題や効果を検証

ポイント

- 在宅医療・介護の推進拠点の整備を契機として、産官学の協働により、先進的な技術・サービスを研究開発・実証し、高齢者が住み慣れた地域で安心して在宅生活を可能とすることを目指す

要支援の高齢者が保有する【スキル＝できる】を【つなぎ】チームを編成し、
多世代と【つながる】イベントを企画・実施

事業内容

◆要支援の高齢者を対象に、デジタルを活用したつながりを創出

- ・要支援等の高齢者にスマホ貸与やスマホ講座を実施
- ・趣味や特技が合致した**高齢者同士をマッチングし、チームを形成**



◆要支援の高齢者が主体となったイベントの企画・実施

- ・**要支援者自身**が主体となって、趣味や特技に応じたイベントを準備・実施
- ・市内トップスポーツチームや企業等の地域資源を活用し、多世代が参加するイベントとして実施



デジタルを活用したコミュニケーションの活性化により
要支援の状態から脱却

ポイント

- 健康な状態に戻すことができる「可逆性」という特性をもつフレイル状態にある高齢者を対象にしている
- デジタルを活用したコミュニケーションの活性化により、要支援の状態から脱却する意思を継続的に醸成
- 市内の企業やスポーツチームなど地域資源を活用するとともに、多世代との交流も促進

デジタルデバイド解消と緑道整備を契機に、身近な自然に親しみながら散策活動を促進

事業内容

◆スマホ講座の実施

- ・高齢者にスマホを貸与、スマホやアプリの使い方講座を実施

◆AI動植物判定アプリを通じた運動機会の創出

- ・アプリの機能を通じて屋外での活動を促進し、**楽しみながら運動習慣を定着化**
- ・アプリを通じて市内動植物のデータを収集し、生物多様性の保全に活かす



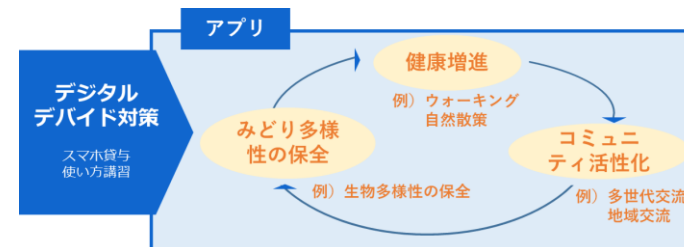
身近な動植物の写真を投稿できるAI動植物判定アプリ

◆公園・緑道等にウォーキングができる環境を整備

- ・市内の自然に囲まれた魅力ある公園・緑道に、高齢者等が日常の散歩や、アプリを楽しみながらのウォーキングができる環境を整備



○公園
●緑道



ポイント

- **高齢者の健康増進**とともに、高齢者が孫世代と一緒に身近な動植物を観察する**“多世代交流”**や**“地域コミュニティの交流”**を活性化させる

デジタルを活用した健康増進の取組とともに、地域の里山活動にデジタルを取り入れ、小学生との交流を活性化

事業内容

◆学生ボランティアと連携した伴走型のデジタルデバイド対策

- ・学生ボランティアと連携し、デジタル機器の使い方講座を実施
- ・学んだ知識と技術を高齢者が他の高齢者に教える「デジタルおたすけっと」を養成
- ・学生ボランティア（デジタルおたすけっとクローバー隊）が継続した助言・相談を実施



◆デジタルを活用したフレイル対策

- ・歩行姿勢をセンサーで測定し、**健康状態を数値化・見える化**し、高齢者の運動継続意欲を向上
- ・会場に行けない虚弱高齢者等に対してもオンラインで合同筋トレを実施

◆デジタルを活用した地域活動・交流の活性化

- ・**里山保全団体の高齢者と地元小学生が、実地活動やオンライン上で交流**
- ・高齢者が、里山の季節ごとの写真や動画をアップロードし、子供がタブレットで地元の自然について学習

ポイント

- 学生ボランティアと連携したデジタルデバイド対策により、**伴走型**で支援
- デジタルを活用して**健康状態を見える化**し、高齢者の運動継続意欲向上を目指す
- 高齢者中心の里山活動に、子供や若者等の参加を促し、**地域における多世代交流**を一層促進

島民の憩いの場である温泉施設をデジタル・健康活動拠点として新たに整備

事業内容

◆島民の憩いの場である温泉施設を、デジタル・健康活動拠点として整備

- ・温泉施設「憩の家」を改修し、**高齢者をはじめとした地域住民のデジタル・健康活動の拠点**にバージョンアップ
- ・地域住民とのワークショップで施設の新しい活用について住民ニーズを可視化
- ・**新島と式根島をデジタルでつなぎ**、オンラインでの各種講座を実施し、**村民の交流活発化と利便性を向上**

◆温泉施設を活用した健康増進プログラムの戦略的な検討・実施

- ・温泉入浴前後の**生体データを計測できるデジタルツール**を活用したプログラムを開発



休憩スペースを拡大し、大型スクリーンを設置し、健康プログラムやデジタルを活用したイベントを実施

ポイント

- 高齢者の生活の一部である温泉施設を活用し、デジタル拠点を創出する**地域活性化につながる取組**
- 住民との対話により、デジタルと温泉を組み合わせた島独自の健康増進プログラムを開発
- 1村2島の特色を生かし、2島をデジタルでつなぎ、利便性の向上、交流の活発化を図る

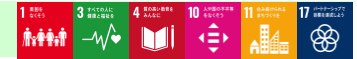
4. 「みんなの居場所」創出プロジェクト

○ 次ページ以降から紹介する6事業は本プロジェクトに基づき採択されたものです。
 ※下図のスライドは採択事業ではありません。

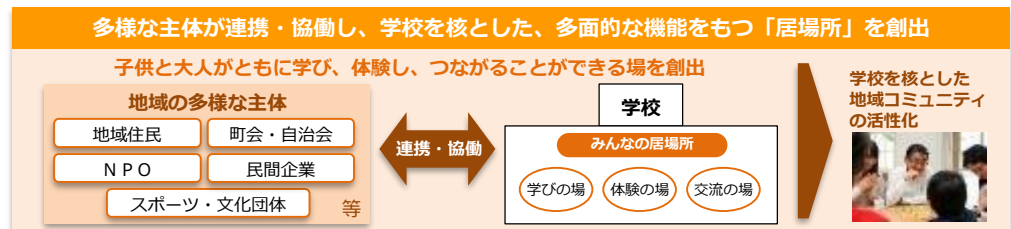
戦略7 「住まい」と「地域」を大切にする戦略

参考(「未来の東京」戦略 P168)

2. 「みんなの居場所」創出プロジェクト



○ 子供・若者、子育て中の方、外国人、高齢者、一人暮らしの方など様々な人が集い、交わり、悩みを分かち合える
 様々な形の「居場所」を、リアルとオンライン双方の強みを活かして地域の至る所に創出する区市町村の取組を強力に支援



3年間のアクションプラン (主要)

| 具体的な取組 | 2020年度末 (見込み) | 年次計画 | | |
|-------------------------|----------------|--------|-----------------|-----------------|
| | | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 |
| 区市町村の先駆的・分野横断的取組を包括的に支援 | 新たな補助スキームの制度設計 | 2自治体 | 事業実施 区市町村の増加 | 事業実施 区市町村の増加 |

2030年への展開

■ 都内全域に居場所を1,000か所創出【2030年】
 ・誰もが求める「居場所」につながる社会を実現

【採択事業一覧】「みんなの居場所」創出プロジェクト

| | | | |
|---|------|---|------|
| 1 | 目黒区 | みどり豊かな公園を核としたみんなの居場所づくり事業 | P 26 |
| 2 | 豊島区 | 若者等がつくる若者の居場所応援事業 | P 27 |
| 3 | 江戸川区 | 駄菓子屋を中心とした地域の居場所づくり | P 28 |
| 4 | 調布市 | eスポーツを基点したインクルーシブな交流・体験機会の創出 | P 29 |
| 5 | 町田市 | 学校を拠点とした新たな地域の学びの場・憩いの場の創出 世代を問わず学校のある生活を「& School」プロジェクト | P 30 |
| 6 | 瑞穂町 | 箱根ヶ崎駅西地区公有地活用プロジェクト | P 31 |

公園を拠点に様々な人が交流するプログラムを展開し、みんなの「居場所」創出

事業内容

◆公園を拠点に地域参加が少ない世代を含め、

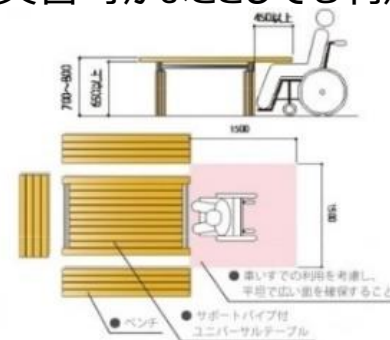
様々な交流機会を創出

- ・子供の感性を育む自然・園芸体験講座
- ・中高生向けの自然保全活動、デイキャンプ場での野外活動
- ・子育てが落ち着いた世代向けの地域活動の入口としてのボランティア養成講座・新たな桜保全活動
- ・障害者の方による花壇整備
- ・高齢者による有機野菜づくりなど公園を拠点とした活動支援



◆誰もが集える、憩いの場の整備

- ・子供や地域の人々の意見を取り入れ、公園内に居場所拠点を整備
- ・車いすの利用者でも利用しやすいバリアフリー対応の野外テーブル
- ・居場所としての機能を高めるためベンチ等を設置（災害時かまどとしても利用）



野外テーブル改修イメージ

ポイント

- これまで地域活動の参加が少ない世代に向けた新たなプログラムの開発や誰もが利用しやすい環境整備により、みんなの「居場所」を創出
- 子供の居場所の確保や高齢者の健康増進、地域の生涯学習推進等幅広い分野にわたる事業

若者が気軽に相談できる居場所を創出するとともに、若者を応援する地域の様々な取組を見える化

事業内容

◆若者が気軽に相談できる居場所を創出

- ・悩みを抱える若者が相談し、必要な行政サービスに繋がるよう、
民間支援団体と連携した居場所を創出
- ・若者が立ち寄りやすいカフェ等に設置するとともに、
若者の感性に合う取組を調査し、実施



『Cleanup & Coffee Club』



『だちやカフェ』

◆若者を応援する地域の様々な取組を見える化

- ・若者が安心して利用できる地域の居場所情報を掲載した
デジタルカレンダー・マップを作成（スマホで閲覧可能）
- ・支援者同士のネットワークとしても活用し、若者を支援する
活動を活性化



(参考) 豊島区子ども若者頼れるマップ

ポイント

- 若者の孤立・孤独や生きづらさを解消するため、相談し、必要な行政サービスにつながれるよう、若者が立ち寄りやすい場所に居場所を設置
- デジタルカレンダー・マップの作成により、若者が**地域の支援につながりやすい環境を整備**

ひきこもりの方や地域の人々が集い、交流できる「駄菓子屋」を商店街に創出

事業内容

◆みんなが集い交流できる「駄菓子屋」を創出

- ・商店街の空き店舗を活用し、多世代が楽しみながら交流できる居場所を設置
- ・ひきこもりの方の居場所や就労訓練の場としても運営

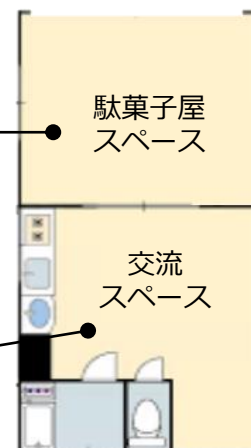


駄菓子屋スペース

- ・駄菓子販売員を配置、ひきこもりの方が駄菓子屋を手伝う（就労訓練）
- ・駄菓子屋に集う子供や親等の交流の場

交流スペース

- ・ひきこもり相談員を配置し、ひきこもりの方が相談員や同じ境遇の当事者等と交流
- ・地域の人々との交流の場を創出 ➡ 商店街のイベントやまちの祭り等にも参加



居場所イメージ

ポイント

- 「駄菓子屋」という多世代の人にとって親しみのある場をコンセプトとした居場所づくり
- 区内にひきこもりの方が約8千人いるという実態調査の結果を受け、当事者の声も取り入れた居場所づくりを行い、駄菓子屋において就労体験まで行う
- 子供の見守り、子育て世代をはじめ多世代の交流、商店街の活性化など様々な地域課題に取り組む

eスポーツを中心に誰もが集い、交流する居場所を創出

事業内容

◆ 様々なコミュニティ施設にeスポーツ実施環境を整備

- ・誰もが気軽に同じステージで楽しめるeスポーツの実施環境を地域の様々なコミュニティ施設に整備
- ・各施設でeスポーツ大会を開催し、コミュニティ活性化

◆ eスポーツ大会による多世代交流の促進

- ・コミュニティ施設間をオンラインでつないだeスポーツ大会等により、多世代の新たな交流を創出
- ・障害者スポーツ体験会等との連携やeスポーツ大会の開催により、市民の誰もが楽しめる交流機会を創出
- ・eスポーツ大会の企画・運営に大学生や地域住民等も参加を検討

◆ eスポーツを契機とした様々な学習機会の創出

- ・eスポーツの電源として移動型の円筒型太陽光発電設備を活用し、環境学習を実施
- ・子どもを対象としたゲームプログラミング教室の開催

移動型円筒形太陽光発電の活用

市内の大学と連携して開発・実証予定の移動型円筒形太陽光発電設備を電源として一部使用

各施設間をつないで実施



ポイント

- 誰もが気軽に楽しめるeスポーツにより、子供、高齢者、障害者等、市民間の交流を活性化
- 地元の大学が研究開発中の移動型円筒形太陽光発電設備を導入し、環境や防災の学習等に活用

学校を活用し、地域の様々な人が学び、協働する地域の活動拠点を整備

事業内容

◆地域の学生が主体となった学習支援

- ・地域の学生を**学習支援員**として配置
- ・子供の宿題、高齢者のスマホ操作など様々なニーズに沿った学習支援を展開
- ・電子書籍の紹介や利用方法の支援

◆多様な地域資源を活用したプロジェクトの実施

- ・地元の大学・NPO等で構成される「**さがまちコンソーシアム**」と協働で様々な講座やイベント等を実施（ものづくり体験講座、こどものまちづくり体験プログラム、市パークミュージアム関連イベント 等）

◆地域活動の活性化

- ・ホール、音楽室、多目的室等を**地域コミュニティの活動の場**として提供
- ・施設予約をパソコンやスマホから可能に

◆安心して利用できる環境の整備

- ・入退室管理システム等のセキュリティ対策、図書室にWi-Fi環境整備



ホール

ポイント

- **学校を拠点**に、子供、大学生、高齢者、NPO、地域団体等、**多様な主体が協働**して、学びや交流ができる様々な取組を展開

多摩都市モジュール延伸等を見据え、にぎわいあふれるコミュニティ拠点づくりを住民参加型で実施

事業内容

◆ 拠点形成に向けた「まちびらきイベント」の実施

- ・コミュニティ形成の新たな拠点としての**認知度向上**に向けて実施
- ・町の魅力発信とともに、地域のプレイヤーとなる事業主体（地元リーダー）を掘起し

◆ 拠点形成に向けた企画・検討

- ・まちづくり懇談会の開催や定期的なイベントを通じて、**地域コミュニティの土台を構築**
- ・町民・地元企業・学生等との協働により、「**地元リーダー**」の育成

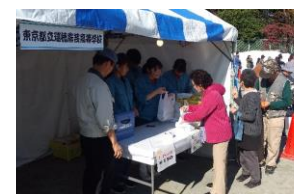
◆ 交流拠点の整備

- ・本格稼働に向けた基盤整備（電気・水道）
- ・地元ニーズを踏まえ、コンテナハウスを活用した多機能イベントブースやサテライトオフィス等を整備
（多世代交流ブース、若者クリエイティブブース、テレワークブース、地元高校ブース、地元企業物販ブース 等）



瑞穂町の特産品

イメージ



ポイント

- まちづくりを契機に、アイデアを持っている若者、イベント参加実績があり地域活性のノウハウを持つ
瑞穂農芸高校、地元企業等といった**多様な主体を巻き込んだ協働によるコミュニティの創出**

5. 参考

- 「未来の東京」 戦略（令和3年3月）

<https://www.seisakukikaku.metro.tokyo.lg.jp/basic-plan/mirainotokyo-senryaku/>

- 「未来の東京」 戦略 version up 2022（令和4年2月）

<https://www.seisakukikaku.metro.tokyo.lg.jp/basic-plan/versionup2022/>

- 「未来の東京」 戦略 version up 2023（令和5年1月）

<https://www.seisakukikaku.metro.tokyo.lg.jp/basic-plan/versionup2023/>

- こども未来アクション（令和5年1月）

https://www.seisakukikaku.metro.tokyo.lg.jp/kodomo-seisaku/kodomo-mirai-action_1.pdf